

# 劔雄二さん死去

82 歳

## ハンセン病患者原告団会長



国の隔離政策による人権侵害を問うハンセン病国家賠償訴訟で、原告団の中心として活躍し、差別や偏見の解消を訴え続けた劔雄二(こたま・ゆうじ)さんが11日、肺がんのため群馬県草津町草津647の国立療養所「栗生楽泉園」で死去した。82歳。通夜にあたる「思い出の会」は12日午後6時、葬儀は13日午前9時半、いずれも同園中央会館で開かれる。喪主は同園自治会役員の岸従一(きし・よりいち)さん。

(27面に関連記事)

劔さんは東京都出身。7歳で発病。前後して発病した母や兄とともに、国立療

養所「多磨全生園」(東京都東村山市)に入った。母は終戦間際の食糧不足の中、54歳で亡くなり、兄も園内の強制労働で病状が悪化し、19歳で早世した。

1951年に楽泉園に転園。患者隔離を定めた「らい予防法」(96年廃止)の見直しを求める運動を展開した。99年、原告団長として東京地裁に提訴するなど3地裁で争った国賠訴訟で中心的役割を果たし、国の隔離政策を違憲と認め原告側が全面勝訴した2001年の熊本地裁判決(確定)に結びつけた。

04年に全国原告団協議会の会長に就任。厚生労働省の責任を追及してきた。療養所の地域への開放を可能にするハンセン病問題基本法(09年施行)の制定にも奔走した。

詩人としても多くの作品を発表。今年3月には詩や

## 元患者人権回復を先導

### 劔さん死去「ハンセン病」星失う

「二つの大きな星を失った」。ハンセン病国賠訴訟の原告団の中心となって活躍した劔雄二さん(82)が死去した11日は、2001年に熊本地裁が国によるハンセン病患者の強制隔離政策を違憲とする判決を下した日だった。9日には全国ハンセン病療養所入所者協議会(全療協)の神美知宏会長(80)が急逝したばかり。元患者馬原草津町で7年ぶりに、ハンセン病市民学会が開かれていた。劔

念の声を上げた。(1面参照)

さんは「いのちの証を見極める」という今回の市民学会のテーマを発案。支援者の一人で元教員の吉幸かおるさん(79)は「市民学会が終わるまでは死ねない」と言って頑張っていた」と話す。

田三四郎さん(88)は「二つの大きな星を失い、言葉が出ず、断腸の思い。劔さんはきちょうめんで礼儀正しい人だった」と話した。ハンセン病国賠訴訟弁護団の中心メンバー、徳田靖之弁護士は「周りが妥協しがちな場面でも『それでいいの』と問いかけて、安易に妥協をしない人だった。闘いが道半ばで無念だろう。私たちがその思いに添えていかなければならない」と訴えた。【塩田彩】

評論などを収録した「死ぬふりだけでやめとけや」(みすず書房)を出版した。昨年末から入院を繰り返してきた。長年復元を求めてきた懲罰施設「重監房」を再現した資料館は4月30日、楽泉園内に開館した。同日の式典に、担架で出席したのが公の場での最後の姿になった。【江刺正嘉】

04年に全国原告団協議会の会長に就任。厚生労働省の責任を追及してきた。療養所の地域への開放を可能にするハンセン病問題基本法(09年施行)の制定にも奔走した。